

《令和4年度阿南市在宅医療・介護連携支援センター事業》
第4回ケアカフェ（多職種連携研修会）

開催日：令和5年3月28日（火）

時 間：15:30～17:00

場 所：阿南医療センター講堂

会議名：令和4年度 第4回ケアカフェ（多職種連携研修会）

目 的：多職種が顔の見える関係づくりの構築及び連携強化

参加者：35名

特別養護老人ホーム・老人保健施設・お世話センター・居宅介護支援事業所
グループホーム、（看護）小規模多機能型居宅介護の各職員、
阿南医療センター医師・看護師、ワーキンググループ会議委員、
阿南市地域共生推進課職員、阿南市在宅医療・介護連携支援センター職員

挨拶：阿南医療センター 緩和ケア内科部長 寺嶋吉保先生



【講義1：感染対策の基本～新型コロナウイルス感染症対策を踏まえて～】

講師：阿南医療センター 感染管理認定看護師 原崎 友香 講師



感染成立の3要因、主な感染経路と原因微生物を理解して、感染対策における職員の役割（①自分が感染しない ②利用者に感染させない ③利用者間の感染を媒介しない）を実施する。標準予防策として、感染症の有無に関係なくすべての人に対して実施する予防策と湿性生体物質（湿ったもの）に触れるときは感染する可能性があるとして取り扱う考

え方がある。施設で実施する主な標準予防策としての4つの各項目（手指衛生・咳エチケット・個人防護服の使用・環境整備）についてポイントの説明があり、ゾーニングがついても院内・施設内と在宅での考え方を説明。在宅も基本は一つの部屋と考えて対応する。どのような場所、どのような行動が感染リスクを高め

るかを理解し、適切な行動をする、また感染対策は流行に関係なく日常から行うことが重要。

新型コロナウイルス感染症は5類移行後も感染力が減弱するわけではないため、緩和できる対策、継続して行う対策について、核施設で検討しておくことが大事である。

感染対策についてクイズ方式でも問いかけがあって、参加者も聞くだけでなく考えるという講義内容は公表であった。

【講義2：グループワーク】



講義Iを聞いて、グループで感染対策について意見交換・情報交換を行った。各グループでの協議で医療と介護の現場での実情の共有やクラスター対応など、様々な意見の議論がされた。事例検討は、グループワークを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、講義1で学んだことを踏まえ、個人ワークでの事例検討に変更して行った。

グループワーク終了後に、原崎講師より参加申し込み時に質問があった4つの事項について回答があり、改善や情報共有に繋がった。

また、本日のケアカフェで共通認識をして多職種連携ができること、自分や事業所でない考え方や手法を知り、今後の業務・対応への安心に繋がれるとの意見があり、今後もケアカフェに是非、参加したいとの要望もあった。

【総評】

変わりゆく新型コロナウイルス感染症対応は、医療・介護の従事者にとって、不安があったが、本日の講義やグループワークで各施設の規模・種別で対応については多少の違いはあるが、基本的概念は共通であることが認識できた研修であった。

また、新型コロナウイルス感染症対応が5類へ変更する5月への対応をできないという概念を取り払い、この研修で学んだことで「住み慣れた町でいつまでも暮らし続けられる」よう多職種連携による支援を行っていきける良い研修会となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、グループワークを個人ワークとしたが、コロナ禍でなかなか会うことができない、名前は知っているが顔が分からない、医療や介護に携わる方々と直接会ってコミュニケーションを図ることで連携ができ、在宅で酸素療法を受けている方が在宅での生活を長く継続できるよう、専門性を高めるケアカフェとなった。

感染対策として、阿南医療センター職員の御協力により自施設での健康確認・阿南医療センター玄関・会場で検温及び消毒の徹底をして開催した。

今後も感染症対策等を徹底し、顔の見える関係づくりで、連携構築を目指したい。

【研修会風景】



※研修動画を希望される方は阿南市在宅医療・介護連携支援センター

「anda-kan2@kenshokai.group」へメールにてご連絡ください。

尚、ケアカフェの動画配信は期間限定ですので、配信期間以降の視聴はできませんので、御了承ください。

担当:センター長 湯浅 祐司